

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 3	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake, drinking patterns and risk of postmenopausal breast cancer in Denmark: a prospective cohort study. 飲酒、飲酒パターンと閉経後乳がん発症のリスク— デンマークでの前向きコホート研究	
執筆者	
Tjonneland A, Thomsen BL, Stripp C, Christensen J, Overvad K, Mellekkaer L, Gronbaek M, Olsen JH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2003 Apr;14(3):277-84.	
キーワード	
アルコール、飲酒パターン、閉経後乳がん	
要 旨	
<p>(背景)</p> <p>既存の疫学研究の結果は飲酒自体が乳がん発症と関連があることを示している。しかし、一定の総飲酒量に対してどのような頻度で飲酒することが乳がん発症と関連するかは不明である。</p> <p>(方法)</p> <p>「食餌と癌および健康」に関する前向き研究のデータを用いて乳がん発症と飲酒量、飲酒頻度の関係を 23,778 人の閉経後女性で検討したところ、4.8 年 (中央値) の追跡期間中 425 例の乳がん発症があった。</p> <p>(結果)</p> <p>総飲酒量と乳がん発症の容量依存関係をみると、飲酒量が 1 日平均 10 g 増加することによる相対危険度は 1.10 (95%信頼区間: 1.04-1.16) であったが、酒の種類には関係がなかった。飲酒量と飲酒頻度の間に相互関係は無かった(p=0.40)。</p> <p>(結論)</p> <p>本研究の結果は閉経後女性に於いて飲酒量と乳がん発症率の間に直線的関係があることを示したこれまでの研究結果を支持し、飲酒頻度とは関係しないことを新に示した。</p>	